島根県立図書館報

図書館だより

題字　田部島根県知事

号数　第5号
発行日　昭和44年10月1日
編集　楫野健治
発行　島根県立図書館
松江市内中原町52
TEL (0852) 21—2101
印刷　渡部印刷株式会社

いつでもどこでも楽しい読書

〝家庭図書館〟

私のうちの茶の間にあるスチール本だなの最下段には、図鑑、年鑑、辞書、百科事典など、家族全員が使う本が並べてある。これらの本は、大きくて重いので、床にすわりこんでとり出せるよういちばん下に置いてある。

その上の段には、家族のものが〝いま読んでいる本〟が並べられている。

これを家庭図書館と呼んでいる。「むかしの書斎、いま図書館」というわけである。

下の男の子は、「将棋入門」と「やぶれだいこ鬼だいこ」それにマンガ週刊誌を読んでいるらしい。

上の女の子は、先日までは、学校図書館から借りた何とか怪奇物語に熱をあげていたようだったが、いまは「極北の犬トヨン」「犬になりたくなかった犬」などを並べている。どちらもだいぶん以前に買ってやったものだが、またひっぱりだして読んでいるのだろう。
よほど犬が好きなのだろう。

こういう調子で、妻のも、私のも並んでいる。

「おとなは、よく、こんなにむずかしい字が並んでいる本を読むね。」などと言いながら下の子が、それでもどんなことの書いてある本かを聞きたがる。

ともかくこうして、だれがどういう本を読んでいるかが、一目でわかるようになっている。

そして、この段に並べられる本はきわめて流動的で、つぎつぎに入れ変わる。

そのことで話題に本のことがのぼるのが、何よりのこの家庭図書館のありがたさだと思っている。

そしてまた、つぎにどんな本が並ぶかという期待と楽しみもその一つだと思っている。

教育評論家　切明　悟

——郷土史講座——

へるんと松江

根岸啓二

1

ハーンの生誕地・ギリシヤのレフカス島にその記念碑が建てられたのは1932年10月のことで当時彼地では、ハーンの生まれ月である6月にその行事を行なう予定であったが川村公使の申し出により、それを秋まで延ばす結果となった。

つまりこのさい、日本として「謝恩」の気持を表わすために何かの贈物をしたい、といった川村氏の気持が日希協会へ伝えられ、同協会理事であった東大文学部教授、村川堅固氏によって次のような碑文が作られ、そのギリシヤ語訳とともに刻んだ青銅板ができ上がるまで彼地の行事が延ばされることとなり、はからずもギリシヤ独立100年祭とともに盛大に行なわれることとなったものである。

日本の真髄を世界に顕彰された文豪ラフカディオ・ヘルン（小泉八雲）に対し日本国民の感謝の意を伝えるために——。

1932年　東京日希協会
松江小泉八雲会

37年前、松江で小泉八雲協賛会が組織され、八雲会と協力的な立場からその協賛事業が企画されたころのことである。

その生地ギリシヤにおいてハーン顕彰の発端が何人によって開かれたかは明らかでない。ハーンみずからがおのれの体内にギリシヤ人の血が流れていることを誇りとしていたことは事実でもギリシヤ人の方は4歳にも満たない年でその地を去ったラフカディオ自体を知るわけはない。それにもかかわらずレフスカの生家は今なおギリシヤ政府によって保存されているということは、伝統文化の国、ギリシヤ人としての誇りが、いや応なしに「文豪ハーン」に対してそうさせたものかもしれぬ。

一方日本の場合はどうであったか。

東京帝大時代、その直弟子の一人ともいうべき詩人の上田敏（京都帝大文学部教授時代）がその著 ***Glimpses of Unfamiliar Japan*** の文跡を慕って来松し、松江のハーンを究める端初を開いた——といわれる、その年次が明らかでないのは残念だが、こうした奇縁がなかったら……またこれに続いた日本の英文学界ならびに中央のあまねき文化人の支援と協力がえられなかったらハーンの松江は、そう易々とは浮かび上がらなかったでもあろう。

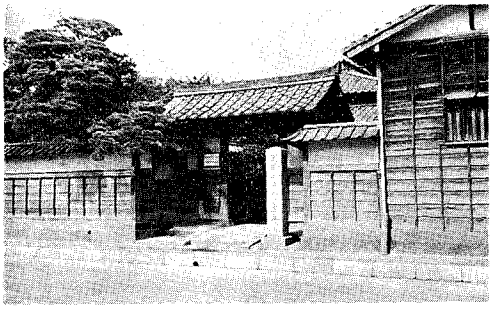
……曰く、坪内逍遥、厨川白村、芥川龍之介、夏目漱石、田部隆次、市河三喜、戸川秋骨、野口米次郎、柳田国男等々。

2

ハーン文学の魅力は、その美文表現の奥底に、人を打たずにはおかない感動的なヒューマニズムの深さがまざまざと感ぜられる点に求められよう。いわば、その作品を構成する章句の一つ一つから文辞的表現技法を立ち超えた何者かが滲み出ているわけで、日本と日本人が大きく浮かび上がった結果とあいなったものの、ハーンの日本びいき、ともいうべきものは、みずからが接してきた具体的な人間像の動きをとらえることから始まって、最終的には、その精神的なバック・ボーンとなった独自の文化的根源の深さにまで溯らざるをえなくなっている。

そこに当初学び、知るために接した日本人から得られた公序良俗中心の褒辞からの解脱があり、「かくあるべき日本人の立派さ」といった、完全無欠の理想像の追及が主観派詩人ハーンの中心課題へと転化していったわけである。

ということは、ハーンの理想像として映じた日本人とは、その古来から久しく受け継いできた独特の精神文化を支柱として今日まで生き続けてきた誇り高き民族である以上、たとえ西欧文化思潮とその技術的な優位性の移入が起こりえても、独善的な思い上がりや無謀な自己過信に陥る前に、慎重におのれの足元を見きわめつつ、移入文化の浮薄さに溺れぬ生き方を学びとるべき賢明な国民性が、その充実した姿でありたい——という願望へと転化されていることに気づくべきであろう。この点はハ



ーン研究上一の重要な課題と見るべきで、昭和7年松江を訪れた親日家、哲学者・神道研究者として知られたメーソン博士の言葉とともに銘記されてよい、と思われる。

——日本には古来から一貫してきた誇るべき神道の精神がある。とかく外来思想にかぶれる傾向は断呼排撃すべきで神道の創造につき進むべきである——。

こと神道に限定するわけではない。この場合大切なことは、よく噛み締め真の糧として吸収し得たものがはじめて有意義となるもので、つけ焼刃式の模倣から伝統文化の本質を見失ってはならないということがある。

3

ハーンの思想は複雑かつ深奥ゆえにその本質は容易には解し得ない。といってもハーン理解のために開かれた別途の道もあるもので、それは結局ようするに人間性の触れ合い、ということであろう。

文字通りの「天衣無縫」がこの人にピッタリの字句となる。日本を愛し、日本人を賛えた——ということは、ハーンの自発行為であって頼まれてやったことではない。しかし自分自身への納得が善行という評価で酬われた場合、褒められた側からの反応のあり方も大切なことなのだ。

このことについて若干の人間関係図をとり出してみよう。

『焼津でのできごと』

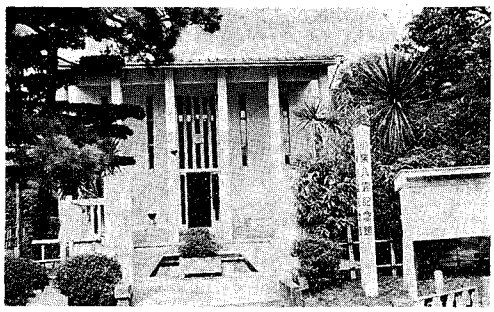
近所の貧弱な床屋にひげを剃らせた。その床屋の腕に感心すると同時に、剃刀の切れ味と砥石に興味を覚え、早速自分のナイフを剃がせて、その優れた切れ味に改めて感心。

研料は3銭とのことだった。それでは安すぎるから50銭やってくれという。

支払の中立をした人は相場というものを頭において、渋る床屋に20銭を受け取らせた。恐縮した床屋に、残る30銭を強いて受けとらせたハーンがあった。この床屋は帰京後のハーンに丁寧な礼状を出し、これを手にしたハーンは『日本の総理大臣から感謝状を受けとりましたより有難いです』といった。

小泉一雄『父八雲を憶ふ』 386頁

弱者への同情や共感は、明治中期弱体な日本人のすべてに対する欧米人の優越感からする憐びん以上のものでない——とするハーン解釈ももとよりありえよう。しかしながら、そう考える前に、心打たれるものがあれば、だれもいない神社の賽銭箱へ、当時としては法外ともいうべき金高を自分だけの判断で惜しみなく投入したハーンがあると同時に——別離の実弟ジェームスを思い出し、綿々の書状を送ったことの回答が「金の無心」でしかなかったと知り得ては、そのまま交際を打ち切ったハーンでもあったわけである。いわんや強要的な寄附申し出などには、無関心を立ち超え感情をムキ出しにした人



柄でもあるのだ。

このようにその心使いに対して感謝の気持のはね返りの有無など二の次としていたハーンにして、さきに述べた焼津の床屋のように、答えられればムシロ何層倍もの強い反応を示したハーンである。

名工荒川亀斉の手になる石地蔵を、それとは知らずに松江の竜昌寺で見つけたハーンは、その技巧にいたく感動して、当時いまだ無名であったこの人に灘の酒一樽を贈った、という話がある。が、これに対して荒川はどのような態度でこれを受けたか、ということについては一切伝えられるところのないのは残念至極なことである。

報謝無期待の贈物とはいえ、その斗酒貪飲事実しかあり得ない松江人とはいわれたくないものだ。

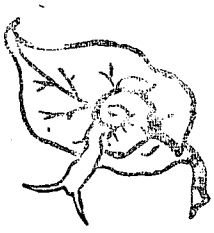
4

ウインストン・チャーチルの墓が生地ブレイドンに建てられたとき、墓参の人がひきも切らぬ状態がでてきたという。その数が20万の上を超したとき、住民数500に充たぬこの僻村は一転して有名地になった。ところがこの村自体は、この現象をはなはだ嫌って村議会の決議をもってチャーチルを喰いものにしようとする一切の営なみ、休憩所、喫茶室、ジュークボックスのたぐいなどを厳禁した、という。

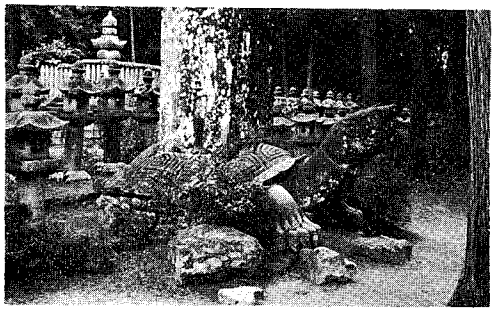
何がゆえにハーンは松江を愛したか。

僻すうの地、神話伝説の国とは、中央文化からの隔絶、ひいては当時嵐のように浸蝕した欧米文化から遠ざかった純粋の日本的イデオロギーの生きていた土地であったことがハーン最大の関心事であったことを顧ると同時に、日本研究の礎としてすでにパーシバル・ロウエル、B・C・チャンバレン等の日本観を十二分に身につけていたハーンのあったことを知るべきでもあろう。

（ハーン旧居主）



へるんゆかりの地を訪ねて (1)



（月照寺）

松江藩主松平家菩提寺、へるんが松江市内で一番好きだったところ、『一番好きです私もここに埋めてほしい』といったといわています。『夜出会ったら一番ゾットするだろうと思われるのは、松平家代々の墓所のある松江の月照寺という寺の化けガメだ。……この墓場の化け物が真夜中にのそりのそり這い出して、近くのハス池に入って泳ごうとした物凄さを想像して見たまえ』

＜杵築雑記より＞

（へるん旧居）

根岸家の所有になるもので、同家のあらゆる犠牲と努力により、当時のままに完全に保存されている。熊本転任まで、4カ月余り過ごしたところで、『知られざる日本の面影』の大部分がここで執筆されまた『日本の庭』のモデルとして知られている。特に、へるんはこの庭を大変愛した。『自分の今の家はある高位のサムライの昔の住宅で、いわゆる家中屋敷である。……土塀の外には電信・電話・新聞・汽船・ありとあらゆる変わり果てた近代日本の声が、ごうごうとうなり声をあげている。土塀の内に入ると、ここには閑寂な自然の平和なやすらいと、16世紀の夢のかずかずがふかぶかとこもり住んでいる。

＜日本の庭より＞

（松江中学校）

当時、島根県尋常中学校と呼ばれ、現在殿町の教育会館（警察本部前の建物）が当時の建物の一部であり、当時をしのぶ貴重なものである。『尋常中学校は、濃い青灰色のペンキで塗った、洋風2階建の、木造の大きな建物である。ここには、約300名の通学生を入れる設備がある。校舎は、二方に濠をめぐらし、二方は静かな街路に面した、広い方形の敷地の一角に立っており、この敷地は古い城跡に隣接している。

＜英語教師の日記より＞

レファレンス・コーナー

――最近の事例から――

（問）労働基準法で休日についてどのように規定してあるか。またその解釈について知りたい。

（答）労働基準法第35条は「使用者は、労働者に対して毎週少なくとも1回の休日を与えなければならない。前項の規定は、4週間を通じ4日以上の休日を与える使用者については適用しない」と規定している。毎週少なくとも1回休日を与えるなら、その休日を特定の曜日に固定することを労基法は要求していない。

毎週「少なくとも1回」とは雇い入から7日、7日に1回の休日が与えられればよいのであって、どこの7日をとっても休日が1回入っていることを要する趣旨ではない。ここに休日とは原則として暦日（午前0時から午後12時）を指すが、暦日の主要部分を含む連続24時間を例外的に休日とみることは許される。2項によって変形休日が認められているが、実はわが国の労基法上週休の原則は4週4休日の原則でしかなく、第35条1項は精神規定にすぎない。立法論としては大いに問題のあるところである。（有泉　享　労働基準法　有斐閣　294P～301P）

さらに次の文献を参照されたい。吾妻光俊編のものは非常に詳しい注釈書である。

村上茂利　わかりやすい労働基準法
　　労働法令協会

吾妻光俊編　註解労働基準法
　　青林書院新社

現代労働問題講座　5　　労働時間と職場環境
　　有斐閣

なお辞典類として次のものをあげることができる。

大河内一男編　労働事典　青林書院新社

我妻栄編　新版新法律学辞典　有斐閣

═読書週間事業決まる═

恒例の秋の読書週間が来る11月３日の文化の日を中心にして前後２週間にわたっておこなわれますが、県立図書館では読書推進運動協議会と共催で本年度読書週間行事を次のとおり決定しました。

（１）移動図書館特別巡回

市町村立図書館およびモデル文庫の育成援助をはかるため、図書館車『しまね号』により、読書週間の期間中に関係市町村を巡回し図書の貸出しや、読書指導をおこなう。巡回日程は次のとおり。

巡回地

月/日	市町村立図書館	モデル文庫
10.28	布部　〃	安来
〃.29	大東　〃	仁多
〃.30	木次　〃	三刀屋
〃.31		赤来、頓原
11.4	大社、大田〃	
〃.5	益田　〃	
〃.6	津和野〃	匹見、柿木
〃.7	浜田　〃	石見
〃.8		瑞穂
〃.10		鹿島、八束

（２）読書普及振興大会

読書普及を推進するため、県下の婦人会員（婦人学級、家庭学級等）をはじめ、各読書会員、配本所の担当者、地教委職員（公民館、図書館を含む）等の参集を求め「読書グループをつくりましょう」をテーマに、講演や体験発表、研究討議をおこない、読書普及の振興を図るため次の日程により大会を開きます。

- ◦とき　11月24日（月）
- ◦ところ　島根県立図書館
- ◦日程
  - 1　表彰式　３団体、および７名の功労者に対して
  - 2　体験発表　城北婦人読書会外４グループの代表
  - 3　意見発表
    国富公民館水前館長外３名
  - 4　講演
    教育評論家　切明悟氏
  - 5　研究討議（質疑応答）

なお、参加希望者は、だれでも出席できますので市町村教育委会を経由して申込んでください。

≪読書グループ訪問≫

＜松江市城北婦人読書会＞

千手院の和尚さんを囲んで町内の主婦５人で読書会を作ったのは昭和26年春であった。高浜虚子著「柿二つ」を読んでお寺の座敷で第１回の集まりを開いたのだった。高台にある千手院の夜は静寂そのものだった。和尚さんの豊かな助言と皆さんの意欲的な発言にひどく感動した私だった。忘れ得ない一つである書物は次々と幅広く選ばれ精読のうえ月１回の集会を待ちに待っていた。話に熱中し、夜の更けるのも知らずに気づいた時は１時を過ぎていたことが幾度だったか「遊んでいたんじゃない一生懸命勉強していたんだもの」と自分に言い聞かせながら坂を降りたものだった。この読書会は和尚さんが病気で辞められたあと、さびれの一途を辿り図書目録に㈷教育と人間（矢内原）と書かれてある。これが最後の書物となっている。やがて若槻公民館長のお力添で城北婦人会に読書会が生まれ、最初の会を持ったのは昭和35年２月雪の降る日だった。会場は千手院、人数は20人、亀井勝一郎著「新夫婦論」を取りあげ若槻、山根両講師で助言指導をいただいたのは幸せなことだった。次の井上靖著「敦煌」から感想文集「ともしび」を編集することになった読んだ本のその時の感想を書き残して置くことに深い意義を感じ一心に読み、そして書いた。けれど回を重ねるごとに減って行く会員、そしてともしびへの投稿も漸減して毎月の編集は不能となった。厳しい反省の末、書物の選定に問題を感じた。そして作文に対する表現力の不足が投稿意欲をはばんでいることに気づいた。その人にしか書けない感想文である。そしてその時にしか湧かない感想を借り物でないそのままを表現してこそともしび編集の意義があるのだと思ったが、わかってもらえぬままにともしびは消えてしまった。でも読書会は今なお健やかに育っている。忙しい生活の中から余暇を見出して読書に当てている。読書の時間は自分で作らねば得られないということを私たちは体験し、実行している。

（黒岩花世）

寄　贈　図　書

◎郷土資料

図書名	住所	寄贈者
火星へシルクハットを等	東京都	園山俊二
フシオチオ	〃	青戸白虹
不在	〃	石川まき子
ゆふべを花に	〃	〃
歌集　龍謄	〃	〃
〃　漁火	〃	〃
〃　糟糖の匂ひ	〃	〃
〃　天の砂	〃	〃
市民と議会	〃	近藤英明
国会のゆくえ	〃	〃

◎一般図書

日本民謡大観	東京都	日本放送協会
日本国有鉄道百年史	〃	日本国有鉄道
歴代文部大臣式辞集	〃	文部省
社会福祉入門等	〃	塚本哲
明治天皇紀	〃	宮内庁書陵部
多極化時代のアメリカ外交	〃	鹿島守之助
ラフカディオ・ハーンの出雲文学	京都市	全国日本学士会
隠岐郷土研究	隠岐	岸本貞恒
原夫次郎氏放送原稿	大阪府	井上重蔵
公認会計士試験問題集	東京都	大蔵省証券局
島根県の都市計画	松江市	土木部計画課
戦後日本賃金論争史	大阪府	山本正之
三江北線と石見川本駅因原駅の歴史	松江市	天津隆
行啓記念　黒木御所論文集	知夫郡	安藤猪太郎
反抗期の少青年	浦和市	山根薫
津和野ものがたり　1．津和野藩	津和野町	津和野町教育委員会
日本燈台史	東京都	海上保安庁燈光会
世界のアマチュア演劇	横浜市	日本アマチュア演劇連盟
研究紀要	横田町	横田高等学校
月着陸	東京都	アメリカ大使館
感激の思い出	津和野町	津和野町長
山陰の水都松江	松江市	島根県教育庁
内閣文庫洋書分類目録	東京都	内閣文庫長
長尾歴遺跡及長尾原一号墳調査既要	川本町	川本農林土木事務所
日本の山村問題	東京都	山村振興調査会
石東史叢	大田市	宅和清造
榊谷仙次郎日記	東京都	榊谷仙次郎日記刊行会
今日のドイツ	〃	ドイツ大使館
農林栄養統計	〃	農林省
国会成立法律集	〃	自由民主党
安来と横顔	松江市	島根さむらいの会
商工名鑑	東京都	京橋図書館
まごころ	松江市	光田功
観光沖縄	那覇市	沖縄観光連盟
ラフカディオ・ハーンの再話文学	松江市	森亮

——6月1日から8月末日まで——

44年6月1日　作家原稿展（29日まで）
2日　県公共図書館協議会（浜田市）
3日　中国五県県立図書館長会議（山口市）
4日　自動車文庫巡回（広瀬、横田コース）
保健婦専門学院ＡＶ講習20名
9日　モデル文庫運営協議会
12日　自動車文庫巡回（美保関コース）
14日　文化映画を見る会、ステレオコンサート
18日　保健婦専門学院ＡＶ講習20名
19日　出雲市公民館々長20名見学
21日　古文書を読む会
23日　平田市伊野小学校30名見学
25日　保健婦専門学院ＡＶ講習20名
27日　図書館協議会通常会（床几山荘）
（6月中閲覧者総数12,340名）
7月1日　郷土資料展（30日まで）
閲覧時間5時以降7時まで2時間延長実施8月末まで
鹿児島県立図書館職員視察
自動車文庫巡回（伯太コース）
2日　自動庫文庫巡回（平田、日御碕コス）
3日　自動車文庫巡回（雲南コース）
9日　保健婦専門学院ＡＶ講習20名
12日　文化映画を見る会、ステレオコンサート
15日　姫路市松蔭女子学院大学教授外4名見学
17日　美都町婦人会15名見学
18日　郷土建設青年大学受講生36名見学
郷土の歴史講座（講師島根大学加藤義成）
19日　古文書を読む会郷土の歴史講座（講師松江南高校　池田満雄）
21日　郷土の歴史講座（講師　松江南高校　藤岡大拙）
22日　郷土の歴史講座（講師平田高校藤沢秀晴）
23日　郷土の歴史講座（講師　安来高校　森安章）
25日　鳥取県財政課職員3名視察
28日　宇山駐インドネシア大使外4名来館見学
自動車文庫巡回（邑智コース）
29日　世界の特種写真展（展示コーナ、ホールに展示30日まで）
（7月中閲覧者総数15,620名）
8月1日　斐伊川治水史料展（29日まで）
6日　移動文化教室（匹見町、弥栄村、石見町）
10日　文部省社会教育局新堀社会教育官来館見学
11日　文部省社会教育局中島主任社会教育官来館見学
12日　千葉県教育長来館見学
16日　古文書を読む会
20日　自動車文庫巡回（広瀬コース）
21日　〃　〃　（横田コース）
23日　豊中市立図書館協議会委員来館視察
文化映画を見る会、ステレオコンサート
24日　斐川町斐川西中学校40名見学
28日　自動車文庫巡回（斐川コース）
31日　津和野町青年学級20名見学
（8月中閲覧者総数27,710名）

告　知　板

◇歓迎!!全国奉仕部門研究集会

本年度の全国公共図書館奉仕部門研究集会についてはさきに館報第4号にその概要を紹介しましたが、その後全国各地から申込みが殺到し、当初予定していた100名の参加予定数に対し、9月20日現在127名の申込みがあり、事務局はうれしい悲鳴をあげている状況です。

松江城を背景に、城山の緑に包まれた絶好の環境の地にあるわが県立図書館において、このように全国各公共図書館で活躍されている多数の方々を迎えることは、県立図書館創立以来のことであります。この研究集会には館界のベテランであります九州産業大学教授菊池租先生を特別講師として、また、文部省社会教育局主任社会教育官中島俊教氏、日本図書館協会事務局長叶沢清介氏、東京都日比谷図書館企画係長朝倉雅彦氏を指導助言者として迎え、公共図書館における奉仕活動の当面する諸問題について研究発表や部会別研究討議がおこなわれ、内容豊かな研究集会になるよう期待されています。

◇小泉八雲展開催について

待望の小泉八雲展はいよいよ10月11日～30日まで、当館展示コーナーにおいて「へるんと松江」というテーマで開催することになりました。この小泉八雲展には珍しい貴重な資料の数々を展示することになっています。その主なものは、(1)ラフカディオ・ハーン雇人条約書　(2)赴任の際月俸1カ月前借請求文書　(3)ハーン自筆大津事件の際露国皇帝宛見舞電文原稿　(4)ハーン自筆名刺ならびにへるん旧居知名人芳名録　(5)西田千太郎日記　(6)当地で編さん発行になる図書等

◇県立図書館友の会会員のみなさんへ!

昨年10月新図書館落成を機に〝県立図書館友の会〟を結成いたしましたが、早くも一周年を迎えました。幸い会員の皆さまのご協力により、会員数110余名の多きに達しました。

友の会は、会員と図書館とのつながりを深め、図書館資料の調査、研究、鑑賞のためその利用の便宜をおはかりするのが目的でありました。しかし、初年度のため十分なサービスもできないまま終わりましたが、来年度こそはご期待にそうよう努力をいたしたいと考えております。

なお、43年度会計は、9月末で終わりましたので会則により44年度の年会費（300円）の納入方についてよろしくお願いいたします。

なお、新しく入会される場合は、入会金100円のほかに会費300円を納入しなければなりません。

また、友の会に対するご要望なり、ご意見がございましたら係までどしどしお知らせ下さい。

（友の会係より）

古文書を読む会

同好会として発足した「古文書（こもんじょ）を読む会」が、図書館主催の行事となってから、すでに6回目を終えた。この会は毎月第3土曜日午後2時から、およそ2時間古文書の読み方を演習するものである。一口に古文書といっても、時代によって文字のくずしかた、使用文字、慣用語句などが異なるので、中世文書（藤岡担当）と近世文書（藤沢担当）に分けてテキストを作成し、読解演習を行なっている。テキストにはできるだけ郷土の文書を用いる方針であるが、中世文書は極めて少ないので、テキスト作成に苦労する。近世文書は比較的多く残っており、内容的にもまとまったものがあるので、興味深いテキストができている。

今までに使った文書は、中世では重要文化財に指定されている南北朝期の宸翰類、石見土豪小笠原関係文書、大社々家富氏文書など、近世では主として農村関係文書（これを地方（じかた）文書という）を、内容形式に分類して用いている。

お年寄から高校生にいたる熱心な男女会員が、毎回50人前後参集して、充実した土曜の午後を過ごしている。

今後は従来のように単なる文書の読解力養成に終わらず、その文書を通じて、歴史的背景を考えていきたい。難解な古文書を一つ一つ首をひねりながら読んでいくうちに、行間ににじみ出る過去の歴史事象が汲みあげられるような、郷土の歴史と密着した会にもっていくよう努力していくつもりである。

（古文書を読む会主任講師　藤岡大拙）

古文書を読む会
――参加申込みについて――

この会はどなたでも自由に入会できます。会費はいりませんが、テキスト代金として1カ月50円必要です。

申込みは当日受付でおこないます。

新着資料の紹介

館内用図書

（総　記）

書　名	著　者
私はこう思う	池田大作
日常性の中なる日本	長谷川如是閑

（哲　学）

一度だけを生きる愛	三浦朱門
能力開発自主トレーニング	相場　均
サラリーマン・タブー集	三鬼陽之助

（歴　史）

太平洋諸島の民族	早津敏彦
毛沢東―毛と中国革命―	ジェロームチェン
時代考証うらおもて	林　美一
日本文化論	石田英一郎
手掘り日本史	司馬遼太郎

（社会科学）

現代の経営　上、下	ドラッカー
素顔の日本	河崎一郎
部落―ある靴職人の視点―	上方　鉄
法律相談シリーズ	有斐閣
同級生交歓　全3巻	武者小路実篤他
生活未来学	美濃順三

（自然科学）

情報の世界	南雲仁一
サンゴ礁への招待	白井祥平
やさしいコンピュータ	竹内　均
病気のない世界	柳沢文正

（工　学）

ヨーロッパの城	井上宗和
日本建築の空間	井上充夫
台所を見なおそう	河野友美
人類月に立つ	木村　繁
技術―その周辺―	岸田純之助

（産　業）

喫茶店の設計と経営	島村喜蔵
本百姓体制の研究	内藤二郎
維新農村社会史論	小野武夫
テレビ社会史	志賀信夫

（芸　術）

陶器全集 全32巻	平凡社
日本の民家	向井潤吉
音楽明治百年史	堀内敬三

（語　学）

20カ国語ペラペラ	種田輝豊
日本語にじゃまされた英語表現	稗島一郎
冠婚葬祭司会とスピーチのすべて	高橋圭一
敬語	石坂正蔵

（文　学）

懲役人の告発	椎名麟三
私のひとりごと	石坂洋次郎
虹は夜	田中澄江
日本歌人講座　全8巻	久松潜一他
世界SF全集　全35巻(含未刊)	早川書房
冷血	トルーマン・カポーティ
ニューヨーカー短篇集　全3巻	
十返肇著作集　全2巻	十返　肇
原生花園 1、2	渡辺喜恵子

（児　童）

カナナの槍	フレンチ
小さな魚	ホガード
ホレおばさん	石井桃子
月世界旅行	ベルヌ
おんぼろオートバイP105	ボードウイ

（郷土資料）

ヘルン善人の書	十一谷義三郎
小泉先生そのほか	厨川白村
雲南共存病院史	雲南共存病院組合
御華山弥生式墳墓調査概報	瑞穂町教育委員会

（レファレンス）

文献探索学入門	思想の科学社
名曲事典	属　啓成
日本博士録　全4巻	文部省大学学術局大学課

切明悟氏の紹介

〝家庭図書館〟の執筆をいただいた切明悟氏は、中国ブック・クラブ講師団の一人、現在教育評論家として中国5県はもとより、日本の各地で家庭教育学級や婦人学級、読書会などの講師として引張りだこという人気講師である。一方、切明悟氏は「家庭と教育」月刊紙の主宰をつとめ幅広い活動家である。

この夏、匹見町、弥栄村、石見町で開催した県立図書館移動文化教室には講師として迎えたがたくみな話術と豊かな話題に参加者に深い感動を与えた。今秋、読書週間事業の一つとして開催予定の読書普及振興大会には、講師として再度迎え、特別講演をお願いすることになっている。